

この度はPlanet Waves PW-CT-10 Headstock Tunerをお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。本製品は高精度ピエゾ・トランスデューサーを使用しており、マイク等の電子機器をチューナーに接続することなく、より精度の高い正確なチューニングが可能で、また楽器に直接取付け可能なため、周囲の騒音等を気にすることなく簡単かつ正確にチューニングが出来ます。更にディスプレイにはバックライトも装備されており、スタジオのような明る環境または暗いステージどちらにおいても視認性に優れております。本製品をご使用頂く前に、予め取扱説明書をお読みいただき、大切に保管してください。

バッテリーについて

このチューナーにはCR2032タイプのバッテリー（電池）が付属しています。電池を入れる際は、取付けアームを仰向けにしてください。取付けアームを上を開いた状態で、ドライバーやコインを使ってバッテリーカバーをはずします。バッテリーは+を上にして取り付け、カバーとチューナー本体にそれぞれ小さな突起がありますのでその二つの位置を合わせたところでカバーをはめなおして回すとロックされます。

キャリブレーションについて

PW-CT-10は、工場出荷時はA=440Hzに設定されています。周波数（ピッチ）の設定を変更する場合は、ディスプレイ背面にあるFREQUENCYボタンを押してください。ボタンを押すごとに、ピッチが1Hzずつ変化していきます。好みのピッチになるまで、ボタンを押し続けてください。

チューニングのヒント

- ・チューニング時は弦をあまり強く弾かないようにします。弦を強く弾くと、弾いた瞬間に音がシャープになり、音が安定するまで、弦を弾いた後は少し様子を見るようにします。

- ・弦を弾く際に親指で弾くと、チューナーが倍音を拾いにくくなりますのでチューニングがより容易です。

- ・チューナーを取り付ける位置を色々変えてみると、他の取り付け位置よりチューニングがしやすいことがあります。

操作方法

- 1.はじめに、チューナーを楽器に取り付けてください（音の振動が感知できるように取り付ける位置に注意します）。ギター/ベースの場合はヘッドストックに、バイオリン等の弦楽器に関しては、ブリッジに取り付けるのが一般的です（上記の通りか、またはお客様ご自身で一番チューニングしやすい位置をお試し下さい）

- 2.本製品上部の電源ボタンを押して電源をONにします。チューナーが音の振動を感知するまで、ディスプレイは薄暗い状態になっています。

- 3.チューニングする楽器の音を鳴らします。振動を感知するとディスプレイは明るくなり、ピッチの高さは、ディスプレイ上で左右と中央の三方向のインジケータ（表示針）で示されます。ピッチが合っていない場合、バックライトは赤く光ります。インジケータが中央に来るまで音を鳴らし、チューニングを続けていきます。左右にぶれているインジケータがディスプレイ中央でとまり、チューニングしている音の音名を示すアルファベットの左右に1本ずつインジケータが現れ、バックライトが緑に光ると、チューニングしている音のピッチが表示の音名と合ったことを示します。

- 4.3と同じ方法で、他の音のチューニングを行います。

※バッテリー節約のため、一定時間作動していないと本体の電源が自動的にOFFになります。



安全上のご注意と注意事項

あなたや他の人への危害や財産への損害を未然に防ぐためにご使用前によくお読みになり製品を正しく安全にご使用ください。誤って注意事項を無視して取り扱った場合、使用者が死亡または重症を負う可能性が想定される内容が記載されています。

- ・火災、感電、けが、ショート、故障の原因になりますので改造、修理、分解はしない。
- ・ショート、感電の原因になりますので水滴のついて手でのスイッチ操作や水まわり、風呂場での使用はしない。
- ・火災、故障の原因となりますので灯油、ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコール類での手入れはしない。
- ・破裂、発火、発熱の恐れがありますので電池を火の中に入れない。
- ・故障の原因となりますので電池は＋を正しく装着しましょう。
- ・電池は指定された（CR2032）を使用し、長時間使用しない時は外しましょう。漏液等で故障の原因となります。
- ・本体、スイッチ、液晶画面に無理な力を加えたり、落としたりすると故障・けがの原因となります。
- ・次のような状況、場所での使用、保存は故障の原因となりますので避けてください。
 - （直射日光のあたるところ、暖房機器の近く、発熱する機器の上など温度が極端に高い場所）
 - （ほこり、ごみなどの多いところ）
 - （風呂場、洗面所、濡れた床など水気、湿度の高いところ）
- ・チューニング時の注意
 - 周囲の雑音や他の電子楽器からのハムノイズを拾い液晶画面がチューニング時の様な表示が出ますが故障ではありません。楽器の音を出せば正確にチューニングが出来ます。